



日章学園九州国際高等学校校長便り 隅月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：二倍の努力

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、

自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和7年(2025年)5月1日(木)校長 屋田伸仁



## 交流活動 in マラソン大会

4月20日(日)はえびの京町温泉マラソン大会がありました。

本校は学校挙げての参加です。ランナー、ボランティアスタッフ、応援で全生徒、全職員が参加します。当日は、霧雨が降ったり、止んだりの天候でしたが、ランナーにとっては、走りやすい環境で、ハーフや5Kmのランナーは全員完走し、達成感を味わいました。ボランティアスタッフは、飲料水の提供やゴール地点でのチップ回収、参加賞の配布等ありましたが、留学生にとっては、日本語でのコミュニケーションができるよい機会になり、人間関係づくりが不得手な人にとっては、勇気を出して人と触れあい活動ができる場になりました。マラソン大会は、コミュニケーション能力の向上や人間関係づくり促進に役立つ、貴重な教育の場です。本校は、マラソン大会以外にも、国際交流センターの交流活動、小中学生との交流、学園グループの施設等の交流等、校外での体験活動を積極的に推進していきます。本校は、これからも地域からますます愛され、応援される学校になるようにがんばっていきます。

## 良い習慣は、二倍の努力で！



学園スローガンの「二倍の努力」について考えました。二倍の努力をずっと続けるのはきついです。二倍の努力をしたら、後で楽になるものはないでしょうか。ありました。自転車です。ペダルを漕ぎ始める前は、力を入れます。しかし、後は、スイスイとスムーズに進みます。慣性の法則の推進力です。日常生活に当てはめると、これは、習慣力だと思います。習慣力がある人には、何でもない普通のことでも、習慣力がない人には、苦痛です。たとえば、英検や漢検の合格を目指して、机の前に座って、「よし、毎日30分間、新しい単語を覚えるぞ。」と決心しても、長続きしなかった経験はありませんか。30分も椅子に座り続けるのはきつい。ベッドに横になりたい。お菓子食べたい、スマホでゲームしたい。甘い誘惑にすぐ負けてしまいます。良い習慣をつけないと悪い習慣がつきます。良い習慣がつかなければ、ニュートラルでいられるというわけでもありません。どっちみち、習慣はつくのだから、良い習慣を身につけるのが得策です。「良い習慣は、人生の宝」と言われます。良い習慣をつけるために、二倍の努力でがんばってみませんか？



## 夢と希望の象徴「ユニコーン」

四月号で、ホースセラピーコースの紹介をしました。セラピーホース以外にも馬についてもっと詳しくなりたいと思い、いろいろ調べたところ、西洋人は神話に出てくる「ユニコーン」(一角獣)を唯一無二のスーパーヒーローに見立てているということがわかりました。アメリカ人が、ある日本人を「彼はユニコーンだ。」と言いました。だれだと思いますか。それは、大谷翔平選手です。二刀流で前代未聞の大活躍する

彼を見て、野球の実況放送でアナウンサーは、「彼は、ユニコーンで、スーパーヒーロー、漫画のキャラクターです。彼のやっていることは、現実に起こりえないことなんです。彼ができることを実現するためには、6人の選手と契約しなければなりません。」と絶賛しました。今年も大谷選手の活躍から目が離せません。ユニコーンは、西洋人にとって夢と希望の象徴です。これからも、馬に関する、おもしろいエピソードがあれば、紹介したいと思います。